

幼児の発育・発達について

—土グラウンドと芝グラウンドでの運動能力の違いに着目して—

加地 佐彩 (生涯スポーツ学科 地域スポーツコース)
指導教員 松山 尚道 ・ 新宅 幸憲

キーワード：幼児 芝生 裸足

1. 緒言

日本のアニメは土の公園であるが、欧米のアニメは芝生であることに興味を持った。

近年、一人遊びまたは小集団化した室内遊びの増加によって遊びの喪失、遊びの貧困化によって社会的問題となっているのが子どもの体力低下である。文部科学省は、自然共生型の屋外緑化の活動として、校庭や園庭を芝生化するなど、環境に考慮し、学校施設「エコスクール」を推進している。

そこで、本研究は幼児の走能力と共に幼児の特殊感覚に着目し、どちらの結果においても芝生のほうが良好であるかについて検討する。そして、その結果をもとに園庭の芝生化を推進し、子どもたちが思い切って運動する手助けをすることを目的とする。

2. 研究方法

本研究の調査対象は滋賀県高島市にあるS幼稚園の5～6歳の年長児49名である。

1) 走能力測定

土と芝での15m走のタイム測定をする。

2) 口頭アンケート調査

走能力測定後、感想を含むアンケート調査を行う。

3) 視覚調査

2つの絵を見せ痛覚を問う。

3. 結果と考察

1) 走能力測定(土グラウンドと芝グラウンドのタイム測定の比較)

幼児全員の土グラウンドと芝グラウンドのタイムの平均を出すと、土グラウンドが 4.24 ± 0.29 秒、芝グラウンド 4.11 ± 0.36 秒であり、芝グラウンドのタイムが土グラウンドのタイムよりも0.13秒速いことを示した。芝生での刺激は土よりも足の裏に刺激を与えたことによりタイムの向上に繋がったと考えられる。足底から刺激を受け、末梢か

ら中枢に伝わる。これを求心性神経という。求心性神経の回路を良好にすることで、運動神経を良好にできると考える。幼児期に芝生からの刺激を受け運動神経の構成を促し、形成することで、運動能力の向上が見込まれると考える。

表1 走測定の平均値及び標準偏差

要因	平均値 (秒)	標準偏差 (秒)
芝生	4.10	0.36
土	4.24	0.28

2) 口頭アンケート調査

全てのアンケート調査の項目において、土という回答が多くみられた。このような結果になった原因は2点考えられる。1点目は、芝生の状況である。前日の天候が雨天であり、芝生が湿っている状態であった。土は、乾燥し普段使用している状態であった。2点目は、日本の文化と芝生化の促進不良が考えられる。

3) 視覚調査

視覚調査においては、緑色が41人、茶色が8人と緑色が半数以上をしめていた。この結果においても示されているように、視覚からの情報では芝生の緑色が土の茶色よりも衝撃を軽く感じる事が推察される。

4. まとめ

本研究の結果、足からの刺激は自分自身の感覚とは別であり、身体が感じ行動に繋がっていると考えられる。園庭の芝生化の効果は、幼児の運動能力だけではなく生活リズムの改善にも繋がると考えられる。神経系の発達の著しい年代におもいきった遊びができ幼児の発育発達に大きく影響すると思われる。

参考文献

白木静子(1980) 幼児期の発育発達に関する研究—身体的発育・機能的発達と社会性発達の関係について—, p. 1-40